

今年度の研究を振り返って

この研究を通して、保育をよりよくしたいという仲間や輪が広がっていき、普段、保育・教育を行っている場所は離れていても、つながっている感覚が増していった。

「子どもの豊かな育ちを支えたい」という思いのもと、それぞれの園で実践していること、大切にしていることを語り合うことに価値があったと考えている。前研究では保育を評価するしぐまを整え、園内におけるカンファレンスが日常化し、保育の方向性が共有されていった。そこに外部の視点が入り、新たな見方・考え方に接する機会が得られた。より広い視野や長期的な視点でよりよい保育について考え、自分の保育や考え方が本当に子どもたちの育ちにつながるものであるのか考えることが多かった。「例年、このやり方や考え方でやっていたから」とすべてを踏襲するのではなく、これからの未来を生きる子どもたちにとって、自分の保育はこれでよいのだろうか、真に「子どもが主体・子ども中心の保育」に向かっているのだろうかと問い直し続けた1年間だった。この問い直しは、大変なことではなく、「やってみよう」「取り入れてみたい」と、前向きで柔軟な保育に結び付き、「やってみてよかった」と思える取組であった。今年度、保育参観に伺わせていただいた園や公開カンファレンスに参加してくださった方々に深く感謝している。【3歳クラス担任】

研究会を含め、公開カンファレンスで年数回、他園の方と話をすることができてよかった。時間が限られているため、一つ一つの話題についてたくさんの方の意見を聞くことは難しいが、もう少しじっくり話ができる方法があるといいと思った。附属幼稚園と聞くと、どうしても敷居が高く感じられていたのではないと思う。今年度、つながりをもつことで、壁を取りはらって、横のつながりをもち、互いによりよい保育に向けて取り入れられることから「やってみよう」とするきっかけになったと思う。

職員がいろいろな園を参観させていただくことで、文章では伝わらない保育の温度感が感じられてよいと思った。合同保育は、子どもたちの交流にもなり、子どもも保育者も新しい発見が得られるのでとてもよい機会になったと思う。また、交流だよりや参観の報告でいろいろな園の保育について知り、勉強になることが多かった。【3歳クラス副担任】

今年度の研究が、自分自身の保育の大きなターニングポイントになった。園内で行われている保育、園の文化、園としての保育観や価値観が自分にとって「当たり前」になり、疑問をもったり問い直したりすることが少なくなっていたからである。交流を通して、新たな見方や考え方にふれ、自身の保育が確かに更新されていく手応えがあった。

率直に、今年度の公開カンファレンスにこんなに多くの方に来ていただけたとは思っていなかった。だからこそ、今年度つくってきた「つながり」がこれからも継続していくといいなと願っている。そして、「つながり」によって保育を更新していくことが各園の新たな文化になってほしいとも願っている。そのために、本園は何ができるのか、どう在ればよいかを引き続き考えていきたいと思いを新たにしている。【4歳クラス担任】

今年度、多くの園とつながってよかった。語り合うことで、「こんな考え方があったのか」と、新たな気づきがあり、「これに迷っていたのは自分だけじゃなかった」と仲間ができたような感覚があったからである。そして、語ることは自分がかわる第一歩になったと考える。語ることを通して保育を一緒によくしていく仲間になり、心もちやまなざしが変わっていくことがとても素敵なことだと感じた。また、つながることは、普段は疑問にすら思わなかったことをお互いに気付けるきっかけになっていたと思う。このつながりが小中高とひろがっていけばいいなと思っている。

時間はかかるかもしれないけれど、少しずつ心もちがかわることで保育が変わり、ひいてはそれが子どもたちの未来をつくっていくことになる。子どもたちの幸せのために、続けていきたい取組だと思う。

#### 【4歳クラス副担任】

今年度の研究を通して、様々な園と交流することができ、充実した1年になった。これまで「自分の保育は果たしてこれでいいのか」「今、この子にこの声がけでよかったのか」と迷うことが多かった。しかし、その日の保育について様々な先生方と語り、話し合う中で、自分の保育を問い直したり、保育観を更新したりすることにつながった。また、他園の保育を参観し、交流することによって、新たな視点で保育について考えるきっかけにもなった。

今年度交流させていただいた園の先生方には感謝の気持ちでいっぱいである。保育や幼児についてだけでなく、たわいもないことについて、心を開いて語り合えたことは私にとってとても楽しい時間になった。これからもこのつながりを大切に、交流を深められたらと願っている。

#### 【5歳クラス担任】

上越市内外からたくさんの先生方に来ていただき、実りの多い1年だった。なぜなら、いろいろな園の先生方の保育実践を聞いたり、同じような保育の悩みを共有したりする中で自分の保育を見つめ直すことができたからである。そして、様々な園の保育がある中でも「子どものため」という思いは同じなのだと思えて感じ、もっといろいろな園とつながっていきたいと感じた。【5歳クラス副担任】

外部から来られた方のご意見ご感想が、温かく、肯定的なものが多いと感じた。

附属幼稚園は、職員同士のつながりやスクラムが強みだと思う。それを生かして、今年度はいろいろな園と横でつながり、来年度は小学校とも縦のつながりをつくり、互いの支援のよさを学び合えたらと思う。よい事例や参考になる事例などを学んでいきたい。また、子どもたちのすこやかな成長のために、保護者とのつながりもこれまで以上に大切にしたいと考えている。

各クラスから教職員に毎週配付される「のびのび保育シート」の内容が、やはり保育の核だと思う。自分が動くときや子どもたちをみるときのガイドブックや学びになっていると感じている。【教育補佐員】

交流に出掛けて行った本園の先生方が、そこで見て聞いて語ることで、気づき、ときに揺らいだり、悩んだりしていく中で保育を更新していった。・・・こんな劇的なストーリーを、一年間近くで見ることが出来た。また、本園の保育を参観し「あれは、どういうことなんですか？」と疑問を言葉にしてくださった他の園の先生が、語り合いの中で「あ～！そういうことなんですね！」と納得の表情をされるまでの変化も、それはそれはドラマチックだった。どちらも『違い』との出会いから始まっている。

大学の先生からの「もっと喧々諤々（けんけんがくがく）、やりあったらいい」というコメントが、強く印象に残っている。語り合いたい人は、こんなふうに遠慮せずに言い合えるといい。一方、まずは参観してみたいという方からも来ていただけたらと思う。工夫して、よりオープンなカンファレンスをつくり、より多くの出会いを生み出したい。【養護教諭】